



「ベエズ」

# みなとしみず

発行

国土交通省中部地方整備局  
清水港湾事務所  
御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所  
静岡県清水区日の出町7番2号  
TEL. 054-352-4146 (代表)  
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

- 《目次》 ●「風向き」 清水港湾事務所長 奥田 薫 (1)  
●【みなとへの想い】 沼津市長 栗原 裕康 (2)  
● 韓国海洋研究院の方が下田港を視察されました (3)  
● “田子の浦港” 沼川『石水門』～六ツ眼鏡～ (3)  
● 「ハンセアティック」が清水港に入港しました ● 売土地のお知らせ (4) ほか

## 清水港開港110周年～8月4日は清水港はじまりの日～

今から110年前の1899年(明治32年)7月12日(水)の勅令により清水港が開港され、同年8月4日(金)に関税法の施行により、外国貿易を行うことが認められ開港場となりました。

しかし、太平洋戦争が勃発し、清水港も戦災により倉庫やクレーンなどの港湾施設の7割を失い、港は船の出入りもなく荒れ果ててしまいました。

1945年(昭和20年)に終戦を迎え、清水港のめざましい復興により、戦争によって中断していた貿易も再開しました。

清水港湾事務所も、清水港の本格的改修に着手し、石炭ふ頭や江尻ふ頭の建設などの修築工事を行いました。この写真は、その当時のもので、当事務所に保管されていたものです。



### 「風向き」

清水港湾事務所長 奥田 薫

7月4日(土)国土交通省主催で大規模津波防災総合訓練を実施しました。参加団体51という壮大な、文字通りの”総合訓練”となりました。

開会式において望月・衆議院国土交通委員長からいただいた挨拶の中に、「日頃各機関・団体が行っている訓練の成果、或いはノウハウを披露し、それぞれの力を結集することに大きな意義がある」とのお言葉がありました。訓練プログラムが進むにつれ、その実感が増していったのは私だけではないと思います。

多くの団体の多様な取り組みを目の当たりにすることで、個々の取り組み、相互の連携の重要性を改めて認識することができました。参加された皆様もそれぞれ意義を感じたものと思います。防災は特にそうですが、環境問題にしても物流効率化にしても、「多様な主体の協働と連携」が今まさに必要な時代(=風向き)なのだろうと思います。

参加いただいた皆様、ご指導、協力いただいた皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

# みなとへの想い

## 沼津市長 栗原 裕康



観光を振興分野とした「沼津港港湾振興ビジョン」に基づいた整備に着手して以来、8年目を迎えた沼津港は、現在、その事業効果が顕著に現れ、休日ともなると首都圏を中心に1万人の観光客が訪れるなど、官民協働による「みなとのにぎわいづくり」が図られつつあります。

沼津港のシンボル「びゅうお」は、防災機能を備えた展望水門。海面上30mの眺望は遠くには壮大な富士山などの山河、間近に飛び交うバードウォッチングのほか、水平線に沈む夕日の情景を楽しむ多くの固定ファンもいらっしやいます。

また、隣接する「沼津魚市場INO(イーノ)」は、衛生管理対策を施した観光市場として、さらには今年4月にオープンした「沼津 みなと新鮮館」は、魚食の普及と地産地消を目的とした商業施設として、それぞれの機能を十分に発揮しており、昨今では、年間100万人のお客さんに沼津港を訪れていただいているとも言われています。

一方では、こうした港のにぎわいが広く波及するよう、中心市街地へのアクセスや港の周辺に点在する史跡・名勝の周遊のためのバスの運行なども進められています。

このようなにぎわいの充実への取り組みが認められ、現在、沼津港は静岡県下で唯一「みなとオアシス」に認定され、益々その躍動が期待されているところでございます。

今後は、エントランス広場、旅客ターミナル、体験施設などについて、平成24年度を目安に整備推進する計画となっております。

将来構想といたしましては、富士山静岡空港からの誘客対策として、駿河湾の各港と連携したクルーズ開設を関係者に呼びかけ、駿河湾からの富士山、伊豆半島の変化に富んだ海岸線、南アルプスから南下する稜線等々の景観など、駿河湾の財産を内外に啓発したいと思っております。



【びゅうお】  
(平成16年完成)

年間約10万人が訪れる大型展望水門。



【INO(イーノ)】  
(平成19年竣工)

早朝から活気あるセリが行なわれています。



【マーケットモール】  
(平成21年4月開業)

開業日は3万8千人の人でにぎわいました。



【海人祭】  
水産祭と同時開催。7万人の人でにぎわいました。



みなとオアシスの運営団体である沼津港振興会では、年3回程度の清掃活動を実施しています。

## 下田港

## 韓国海洋研究院の方が下田港を視察されました。

去る6月12日に、韓国海洋研究院 責任研究員(工学博士)の安熙道先生他5名の方が、下田港の視察に訪れました。

韓国(釜山港)では防波堤計画海域の水深が非常に深く、日本では類似する海域での防波堤建設の事例が多いことから、その施工方法や費用などについて研究する目的で来日し、宮崎港、和歌山下津港を視察された後、下田港に入りました。

下田港では、設計や施工の考え方について説明を行った後、実際に現地を海上から視察いただきました。

海上では、事前に説明した内容について、現地箇所の確認の質問が多数あり、またその後オフィスでは更に具体的な質問や意見もあり、当事務所職員にとっても有意義な意見交換の場となりました。

日本の防波堤の建設技術が、韓国での防波堤建設の参考になればと思います。



防波堤設置場所の水深は、最大で42mあります。



安先生らと職員による意見交換の様子

## 田子の浦港

## 沼川『石水門』～六ツ眼鏡～

田子の浦港には大小合わせて6本の河川が流れ込んでいますが、その一つに沼川があります。田子の浦港が築港される以前は、沼川にはたびたび「逆潮」が発生し、富士山麓の浮島沼周辺の村々に甚大な被害を与えました。

その被害を防ぐため、1885年(明治18年)に田子の浦港の近くにある三ツ股渚と呼ばれる沼川と和田川が合流する場所に石水門が作られました。

この石水門は、設計はオランダ人技師の助言を受け、静岡県で初めてセメントを使って石造アーチを施工するという、当時の最先端の土木技術を取り入れて築造されたものです。また、石水門の扉は石水門内外の水位差を利用して自動的に閉まるように工夫され、天候の悪化が予想される場合には手で扉を閉じることもできました。



石水門が刻まれた石版が「富士と港の見える公園」にあります。

石水門は六連の石造アーチ構造となっており、富士山を背景とした美しい姿は地域の人たちに「六ツ眼鏡」とも呼ばれて愛されてきましたが、1966年(昭和41年)に田子の浦港築港と沼川防潮水門の建設によって撤去されることになり、惜しまれつつも約80年にわたるその役割に幕を閉じました。

この石水門の工事は、殉職者が出るほどの難工事であったと言われています。現在、田子の浦港では、岸壁の改良、並びに、航路泊地の整備を進めていますが、狭隘な港内での工事となるため、船舶の航行や作業現場の安全確保に努めながら、円滑に工事を進めて参りたいと思います。

# 探検クルーズ客船「ハンセアティック」が清水港に入港しました。

南極や北極などの秘境の地へも就航できる、ドイツの探検クルーズ客船「ハンセアティック」が、6月22日に清水港に入港しました。

今回のクルーズは、中国の天津より、日本各地(長崎・広島・大阪・清水・横浜・函館・小樽)を巡るコースで、清水港には、平成19年10月以来、2回目の寄港となります。

寄港中は、悪天候にもかかわらず、地元小学生らによる元気いっぱいのリズム縄跳びや、高校生の和太鼓部による迫力ある和太鼓の演奏が披露され、船上からの多くの乗客や乗組員(クルー)、出迎えに訪れていた方々から、大きな拍手が贈られました。

清水港客船誘致委員会(会長 望月薫氏)によると、この先も、清水港初入港となる「プレーメン」や、「日本丸・海王丸」の同時入港、豪華客船「飛鳥Ⅱ」が清水港に続々と寄港する予定とのこと。



雨をも吹き飛ばすような、力強い小学生の演技でした。



週4日、約2時間の練習をされているそうです。



## みなとづくり見学会の開催

6月5日雨の降るあいにくの天気でしたが、静岡北特別支援学校清水分校中学部3年生のみなさんが、清水港の学習の一環として見学のため事務所を訪れました。

事務所職員からの説明とビデオを見た後、実際の港の様子や船、施設などを直接自分の目で見たり耳で聞いたりして、理解を深めました。

海上からの港内見学では、緊張した様子でしたが、みんな真剣な顔で説明を聞きながら港の様子をしっかりと見ていました。

少しでも学習の力添えになっていれればと願っています。



清水港湾事務所の会議室で、職員からの説明を熱心に聞きました。



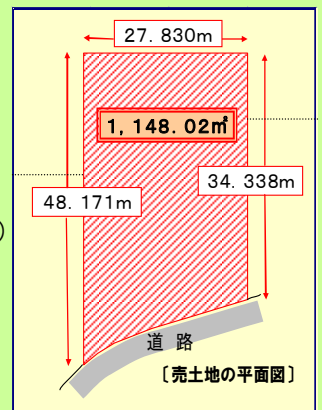
海上から港の様子を見学しました。



## 売土地のおしらせ【御前崎市白羽347坪】

国有地の売払を行います。詳しくは下記問い合わせ先までご連絡ください。

- ◇物 件：御前崎市白羽字間藤原5407-16
- 宅地 1,148.02㎡(347.27坪)
- 都市計画地域内用途指定なし/建ぺい率60%/容積率200%
- 工作物 1式(囲障、屋外溝(一部)、舗床(一部)、土留及び道路反射鏡)
- ◇現地説明会：平成21年10月予定
- ◇入 札：平成21年11月予定
- ◇問い合わせ先：国土交通省 中部地方整備局 清水港湾事務所 翁長
- 電話 054(352)4146
- お問い合わせ受付期間：平成21年8月6日(木)17:15まで



## 海とみなとの相談窓口



PHS 全国共通フリーダイヤル  
 おいに よくなれ みなと  
**0120-497-370**

受付時間：9時30分～12時、13時～17時(土・日、祝祭日は除く) その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください  
 ☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

■本紙に関するお問い合わせ先■  
 清水港湾事務所 企画調整課  
 太田・屋敷 Tel. 054-352-4148  
 ご意見ご感想をお寄せ下さい。  
 shimizukouwan@pa.cbr.mlit.go.jp

